



搾乳を体験する児童。管内の生乳生産は規模拡大や粗飼料の品質の良さから伸びている(2019年6月、豊頃町で)

酪農 生乳生産3・6%増 過去最高更新へ

ホクレンが取り扱う十勝管内の生乳受託量は順調に伸びている。2019年4～12月は、前年比3・6%増の91万9944トンを記録。道内の31%を占め、9年連続の過去最高も視野に入っている。

牛乳や乳製品の原料となる生乳は、道内では大半をホクレンが集荷。酪農家は全国的に戸数減少が続く中、一戸あたりの規模拡大が重要視されている。国は支援制度を通じて規模拡大の後押しをしている。

ホクレン帯広支所によると、19年度は各月3%ほどの伸びで推移。規模拡大が順調に進む中、粗飼料の質の良さも乳量確保に貢献した。7月下旬の猛暑で8月上旬は前年同程度の乳

量となったものの、その後は堅調に推移。18年は9月に胆振東部地震によるブラックアウトの影響もあり、累計では3・6%の増加となった。

十勝管内24JAでみると、19JAが前年超え。JA木野が19・4%増、JA十勝高島が18・1%増と伸び率が大きかった。支所別では帯広に続いて、中標津の61万3480ト(2・9%増)、北見の43万2655ト(1・2%増)が多い。

十勝管内では、18年度に11万4632トンを記録し、8年連続で過去最高を更新した。管内は今年1月も3・1%の伸びで、9年連続の過去最高も現実的となっている。

◆今年度のホクレン支所別

生乳受託量(4～12月)

支所(地区)	生乳受託量(トン)	前年増減(%)
帯広	91万9944	3.6
中標津	61万3480	2.9
北見	43万2655	1.2
釧路	39万9205	0.4
稚内	21万2284	0.2
旭川	12万8015	2.2
留萌	7万4393	1.2
苫小牧	6万1293	-1.3
函館	5万1531	-1.0
倶知安	1万6793	1.7
札幌	1万5724	-1.7
岩見沢	1万3866	-2.4
合計	293万9183	2.0



フットケアに有効な牛舎環境づくりと

土壌改良に不可欠な良質堆肥・液肥づくりが同時にすすめられる!

リサイクル・メイト®とフーフシュアーシリーズの併用で 蹄により良い環境を

嫌気性菌主体 家畜ふん尿専用発酵促進剤

リサイクル・メイト®

- 宮崎大学の三澤先生(獣医学博士)の研究室において、DD由来トレポネーマの増殖を強力に抑制することが判明。酪農現場の声と削蹄師のデータ(削レボ)を裏付けた
- 通路への散布で滑りやすさの原因のぬめり(バイオフィルム=生物膜)を分解
- 生ふん尿の良質発酵を強力に促進。収量・品質・臭気対策に関して、複数の現地試験で有効性が確認されている



フットバス・噴霧器用 蹄管理・保護資材

フーフシュアーシリーズ

- 英国の著名な獣医師ロジャー・ブローウィ氏とクイーンズ大学の協力により開発
- 欧米とアジアの権威ある複数の大学と学会で「DDに対して硫酸銅・ホルマリンと同等以上の効果が確認できた」と発表
- 重金属類・抗生物質・発ガン性物質不使用のため、環境と人畜への負荷、さらに耐性菌発生もない



医薬品ではありません